

「高校生は学校や社会に対して何を思っているのか？」 ～コミュニケーションと参加のあり方を考える～



開催日時：2020年5月23日（土） 運営媒体：Zoom

参加者数：高校生13人+その他10名（+運営メンバー6名）

話題提供者：学生団体 ivote 高校生メンバー

金杉龍吾さん（公立高校3年生）・車世栄さん（私立高校2年生）・後藤信之輔さん（私立高校3年生）
 ファシリテーター進行等：別木萌果さん（岡山大学大学院修士1年）、浜田未貴さん

今回は、全国各地で休校が続いている現役高校生が、いま学校や社会に対してどんなことを思っているのか、率直な思いを聞いてみるという企画です。当日は学生団体 ivote の3名の高校生メンバーから話題提供をしていただいたほか、全国各地から13名の高校生がオンラインで参加してくださいました。高校生同士、ときには大人も交えて、さまざまな議論が交わされました。

前半のテーマは、「学校の変化を高校生はどのように捉えているか」について。話題提供者の3名からは「学校行事や授業再開の方針に関する決定プロセスに生徒が関わっていない」「生徒全体で議論ができる場がなく、生徒からの要望を十分に吸い上げることができていない」「生徒の意思を伝えるための生徒会が存在しない」「授業に遅れが出ていて不安」などの問題意識を共有していただきました。これを受けて参加者の高校生同士のディスカッションが行われ、



ディスカッションの様子（一部）

大学生以上の参加者はチャット機能を使って質問や意見を投げかけました。オンライン授業の話題では、「実技科目もオンライン実施」「HRや朝礼の時間に先生とコミュニケーションが取れている」など進んでいる学校もある一方、「休校期間中の課題がどの程度成績に反映されるのかわからず不安」という声も。ディスカッションが途中で切れてしまったり、ツールの不具合で課題を提出できないといったケースもあるそうです。学校行事に関しては「生徒が動かなければ中止の可能性が高く、生徒会を中心に動き始めている」などの意見が出ました。生徒会に入っている参加者からは他にも、生徒同士で話し合っても先生に伝える手段がない、生徒の意見を届けることが先生の負担になってしまうのではないかと不安、といった声が寄せられました。また新1年生からは「学校やクラスにどんな人がいるのかわからず、学校再開後が不安」という率直な声もありました。

前半を終え、後半のテーマは「社会の変化を高校生はどのように捉えているのか」について。話題提供者からは、政府のコロナウイルスへの対応、9月入学などに関心を持つようになったことや、同世代の当事者性が薄い、若者の社会参画の重要性を感じている、などの思いを語っていただきました。実際に「学校再開について県議会議員への陳情をした」というメンバーも。次に全体の議論に移り、話題はオンライン・オフラインでの意見発信に。コロナ禍では特に、「専門家の意見を聞くばかりで高校生の意見を言う場所がない」という声が挙がる一方、「SNSで自分の意見を発信するのはハードルが高いと感じる」「意見を発信すると浮いてしまう」「知識がないのに発言してもいいのか、間違ったことを言うのではないかと不安」などの声も寄せられました。大人側からは、「正しい知識」がなければ発言できない社会は危ういのではないかと意見や、意見を政治家に届けるために「ハッシュタグ機能」を使ってみてはどうか、などの提案もいただきました。高校生から「まずは学校やクラスの中で政治や社会のことについて話せる場が欲しい」や「学校でも社会でも攻撃的な口調・単調な文面は発言を委縮させるため、やわらかいコミュニケーションを意識することが必要」という指摘もありました。最後に高校生全員がアクションしたいことを宣言し、イベントは終了となりました。今回の企画を通して、私たちが「参加とコミュニケーション」を考えるためのヒントを沢山いただきました。今後も是非、高校生のリアルな声を聴く機会を作っていきたいと思います。（主な企画運営：別木・浜田・小田切・伊藤・斉藤 報告担当：古野）